

第1回 生駒市総合計画審議会第三部会

1 日 時 平成25年7月4日（木）9：30～

2 場 所 生駒市役所 4階 401・402会議室

3 出席者

（委員） 加藤委員、梶井委員、室井委員、竹内委員、生川委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課長補佐、
岡村企画政策課企画係長 加納企画政策課係員

4 欠席者 なし

5 議事内容

（1）各分野の検証

①No. 222 学校教育

（部会長は加藤委員に決定）

【加藤部会長】 本当に暑くなってきたが、この暑い中で熱い議論や検討ができたらい
いと思う。ただ、時間的には、150分、2時間半ぐらいしかないので、大体、20分以
内ぐらいでスムーズに1題ずつを見ていくことを目指したいと思う。

【担当課】 （検証シートについて説明）

【加藤部会長】 このシートの見方というのは、最初に目標値、そして基本施策、目指
す姿を私たちが見ていくということだが、この目指す姿、安心して楽しく学ぶことができ
る環境が整っている、子供の個性や自己有用感、自他の生命を尊重する意識を育み、心の
教育が充実している、市民・地域・事業者・行政が連携して、開かれた学校づくりが行わ
れている、というのが今の説明だった。この事業者の取組などがネックになっているとい
うところで、少し評価が下がったということ。事業者の役割分担で「全く取り組んでいな
い」というのは中小企業に多いのか。

【担当課】 そうだと考えている。一番大きくかかわっていただいているのは、中学校
の職場体験だが、受け入れ先はある程度限られる。機密性の高い業務や安全面で問題のあ

る業務は受け入れることができない。また、職場体験を受け入れる余裕がないという事情がある事業者も中にはあると思う。

【事務局】 今回の事業者の役割分担状況については、去年実施したアンケート調査に基づいて数値を出しており、生駒商工会議所の会員様向けに実施しているので、職場体験などを実践される対象となっている事業者を抽出したものではない。

【加藤部会長】 前回に比べて、耐震度とか子供が好きな授業があるかとか、それが上がっているというところでは、目指す姿①のところのゴールはできているということ。目指す姿の③のところは少し今後の努力が必要ということで総合評価はBということだが、何か御質問等ありますか。

【生川委員】 3－4（2）A No.22少人数学級について。少人数を重視しすぎではないかということと、今後中学校の統合の予定はあるのか。例えば上中と生駒北中など。

【担当課】 それは非常に難しい問題である。現在市内の小学校、中学校では児童数、生徒数に偏りが生じてきている。これはどこの市町村でも同じような傾向があると思うが、まず考えられるのは、通学区域をもう一度見直すという方法がある。ただ、それまでの区域というのがあるため、児童数、生徒数の偏りが出たからということで簡単に決め直すということはできず、通学区域の検討委員会というものも以前も立ち上げたことがあるが、具体的な話になると難しい面がある。生駒市全体では児童・生徒の数も増えており、そのような状態の中で統合というのは、今のところ考えていない。

少人数学級については、生駒市は、小学校1年生が30人学級、2年生が35人学級、3年生以上は40人。国の基準では、1年生が35人、2年生から40人であり、それよりも1年生、2年生で少ない定数である。現場としては、より少ない人数の方が目が届くという面もあり、定着してきているので引き続き実施していきたいと考えている。

【竹内委員】 学校の課題として、不登校やいじめの実態について教えていただきたい。

【担当課】 数値的には他市町村や県全体とよく似たものという数字にはなっている。いじめについては、絶えず教師が目を光らしながら、いろんなところと連携しながら取り組んでいくということを絶えずやっているが、なかなか表面化しにくい部分というのがある。そういう情報をつかませていただくために、昭和59年から地域ぐるみの児童生徒健全育成事業に約30年来取り組んできており、学校関係だけでなく地域や保護者、いろんな立場の方が来ていただいて、いじめなどについての取り組みについて、報告や協議を続けている。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった、いわゆる

児童相談の専門家、エキスパートを充実させ改善に努めている。新たに、昨年10月からスクールアドバイザーという新たな仕組みを整えた。これは医者やスクールカウンセラー、弁護士、警察など学校の中で起こるいじめ問題や暴力関係など、いろんな諸問題に対してタイムリーに専門的な立場からアドバイスをしたりできるような方々と契約をしている。どこかに常駐しているというのではなくて、それぞれの立場の人と契約をして、学校からそういう要望があったときに対応をお願いしている。

【加藤部会長】 不登校というのも、学校だけの問題じゃなく、家庭環境などを考慮して総合的に見ていく必要がある。生駒は奈良では比較的進んでいる取り組みをされているので、連携はとれていると思う。

【担当課】 不登校の生徒の場合は、教育支援施設において学習をしたり集団活動をしたりしている。その中でも、学校に完全復帰できた子供もおり、それなりの成果は上げていると理解している。

【竹内委員】 この目指す姿の中には、一番先端に立つ現場の教員の実態が見えない。また、生駒市の人間像、どう育てていくかという像も見えない。その辺りの実態がよくわからないので、目指す姿の目標と評価の項目が合っていないと感じる。今回、この課題の中でゆとり教育の見直しとあったが、その見直しの形として出てきているが、先ほどおっしゃったいわゆる学校の科目で好きなものがあるかどうかとか、そういうことの指標としてお使いになっていると思う。この課題の見直しと具体的な取組がどうリンクしているのかがちょっと見えなかったように感じた。

【加藤部会長】 教職員の質的向上を図るという所にメンタルヘルスについても入れていただくと良いと思う。

【生川委員】 最近のいじめというのは、例えばスマホのLINEとかで誹謗中傷とか、そういう陰湿な、警察と連絡して対応するようなそういういじめが起こっているが、そういうこともスクールアドバイザーに相談できるのか。

【担当課】 学校から問い合わせが来たときに、内容に応じてそれぞれの専門家に相談を行う。

【加藤部会長】 専門家の方が、より深く、学校の先生だけで分からないところを守っていただくということ。インターネットの問題はとても大事なことだと思う。

【担当課】 インターネットの問題については各機関から通知が来るし、市としても独自の通知や指導をしている。また教員対象の研修等も行っている。

【加藤部会長】 スクールアドバイザー制度では、例えばどんな問題が多く起こってくるのかなど、Q&Aを作ることも必要であろう。評価はBとする。

【竹内委員】 今後は教員がゆとりを持つことが重要だと考える。

②No. 221 幼稚園教育

【担当課】 (検証シートについて説明)

【加藤部会長】 スクールボランティアについて教えていただきたい。

【担当課】 地域の方から申し出をいただいて、ボランティアとして各学校、幼稚園で自分の得意分野を生かしていただくもの。直接、各小学校や幼稚園に申し出をいただいている。

【室井委員】 各地域で、学校のある地域でボランティアを募集している。私の地域では、すごくスムーズにいており、ものすごい助かっていると地域の方々がおっしゃっていた。とても良い取組だと思う。1つ気になったのは、幼稚園の耐震について。

【担当課】 平屋建ての幼稚園の場合は、鉄骨造りなので、例えば壁であればそれ自体を強くする必要がある。壁をぶち抜いてもっと丈夫な壁にするとか、今まで窓があったところを壁にしてしまうとか、そういう工事になるため、期間がかかる。幼稚園の耐震工事が少し計画より遅れているというのは、そういう理由がある。極力、夏休みに耐震工事が終わるようなスケジュールを組むが、夏休みだけではどうしても終わらないというケースが出てくる。その場合は危険性のないところだけを先にさせていただいて、夏休みに耐震のメインの工事をさせていただくといったスケジュールにしている。

【室井委員】 土砂対策についてもお伺いしたい。

【担当課】 対策が必要なエリアは認識しており、危機管理課といった防災担当部署と連携を図っていきたいと考えている。

【加藤部会長】 評価はBとしてよろしいか。

【各委員】(異議なし)

③No. 223 特別支援教育

【担当課】 (検証シートについて説明)

【加藤部会長】 この分野の課題としては、親が子どものことを理解し、いかに早く相談することができるかどうかということがある。

【生川委員】 スクールカウンセラーの配置の頻度は、もう少し増やすことができないのか。

【担当課】 予算的な制限があるので難しい。ただ、限られた予算の範囲内でより有効に配置できる働くように、1日の配置の仕方や時間数を工夫して配置の仕方を少し変えてはいる。

【梶井委員】 スクールカウンセラーを大いに活用するためにも、市民の認識を高める方に力を入れた方が良いと思う。新たな取組は何かされているのか。

【担当課】 昨年は、一般市民の方も来てもらえるような地域ぐるみの講演会にスクールソーシャルワーカーを招いて講演を実施した。スクールカウンセラーが子供や保護者に直接かかわっていくことに対して、スクールソーシャルワーカーはその事象が複雑な場合で、本人、家庭、学校、地域、全てが絡んできている場合に、いかにかかわっていくのかというコーディネートをするものである。

【梶井委員】 広報の特集ページなども効果的だと思う。

【竹内委員】 特別支援学級と普通学級の関係性はどうなっているのか。

【担当課】 程度に応じて、ほとんどみんなと同じ中で学習した方がより効果が上がると見える場合、一部の学習を除いて、通常学級と一緒に生活をするという場合がある。領域としては、知的な部分であったり、肢体不自由の部分であったり、いろいろな内容がある。また、発達障がいというものは、見た目には見えない。見える部分と見えない部分があるので、それは、その中で一緒に生活することによって、人権教育の観点から、子供たちはいろんな子がいるんだという、性格的にも、お互いに認め合い助け合いながら学習していこうという取組を進めている。だから、いわゆる特別なものという捉えではなくて、その子の個性は他の子よりややちょっと程度の高いものという捉えもやっぱりできると考えており、そこを子供たちがお互いに助け合いながら、協力し合いながらやっていく、そういう教育が大事なことだと考えている。

【加藤部会長】 今はソーシャルインクルージョン、以前なら統合教育とかノーマライゼーションとかいろんな言葉で言われてきた、これは本当に根底に一番大事なことなので、それを理解しながら、そういう子供たちが生活しやすくすることはとても大事だ。評価はBとする。今後はスクールカウンセラーについての広報を進めていただきたい。

④No. 451 障がい者保健福祉

【担当課】 (検証シートについて説明)

【竹内委員】 指標No.1の目標設定に疑問を感じる。この分野は高齢者の問題とも関連しているので、その点をどうするかが問題だ。

【事務局】 この客観的指標については、指標と現状、目指すべき方向のところに乖離があるということで、代わりに補助指標を設定させていただいている。

【加藤部会長】 高齢者というところの切り口の中では、高齢者が安心して暮らせる地域体制が整っているとか、健康で生きがいを持ち、自立して生活しているとか、介護保険制度の運営が健全に維持され、質の高いサービスが提供されているということで、高齢者福祉と重複しているところをどう評価するかという問題にもなってくるかなと思う。障がい者虐待防止法に関連した市の体制について伺いたい。

【担当課】 虐待については、障がい福祉課の中に虐待防止のための通報制の合同チームを常設している。現在のところ、通報はない。

【加藤部会長】 当事者本人以外への周知は。

【担当課】 障害者手帳を受けられるときに説明したり、サービスを受けられるときの支援給付申請のときに説明を行っている。

【生川委員】 3点伺いたい。高齢出産の問題への取組と、障がい者サービスの条例について、障がい者理解を深めるための取組について。

【担当課】 条例については、障害者差別解消法が施行されるのでそれに沿って進めていく予定。追加での条例制定は考えていない。障がい者理解を深めるための取組は、今後必要だろうと思う。教育分野になろうかと思うが、就学している子たちにそういったことも体験していただいて、その体験を活かしていただきたいと考えている。高齢出産については、今後検討していく余地はあるが、現在は取り組んでいない。

【加藤部会長】 今後は、障がい者理解を高めた講習の開催回数やチラシでの広報印刷枚数なども指標化できるのではないだろうか。

【担当課】 障害者総合支援法の中に、自立支援協議会という法定協議会があり、その中には特別支援学級や養護学校の先生方に入っただいており、発達障がいとかそういったものについてどういう取り組みをしていこうかということ協議している。

【加藤部会長】 やはり、当事者の声が反映されないといけないと思う。父母の会などの団体を通してでも良いと思う。評価はBとする。

⑤No. 212 保育サービス

【担当課】 (検証シートについて説明)

【生川委員】 見守りボランティアは、これからもっと増やしてほしいと思う。それと待機児童について、幼保一元化についてはどのようにお考えか。

【担当課】 登下校時の見守り活動、ボランティアで、あすか野とか、地区によって若干差はあるが、やっていただいているところがあるので今後も活動が広がっていくような形でお願いしていきたいと思っている。待機児童対策について。家庭保育という形の保育ママと通称言う事業は、今のところ、まだ奈良県も推奨していない。保育園の株式会社参入についても、国の方の基準では株式会社が保育事業に参入してもいいというようなところがあるが奈良県は今のところ社会福祉法人の段階まででとまっている状況であるが、今後その辺も改正はされてくると思う。昨年度市内で4園の新園を造って390名定員が増えているが、保育サービスの低下を防ぐためにも私たちは、民間でも社会福祉法人なりある程度の規模の持った園を誘致したいという気持ちで動いている。また、分園方式という取組も始めており4月に民間の法人が空き店舗を見つけ、既に安心こども基金で予算化もしており11月ごろの開園をめどにしている。来年度に向けては、子育て支援会議で保育ニーズの調査を行い今後の見込みを考えていきたいと思っている。

【生川委員】 子育てしやすい生駒市を目指している割には、指標のC評価はおかしいと思うが。

【担当課】 待機児童の数値、226人というのは4月に入る方も入っている。4月から入るから、3月時点では待機になっている。

【竹内委員】 そういう意味でいけば、B評価でもいいと思う。ただ、これからの人口減少に対応するためにも、施設を造るより民間のシニアの家庭で夫婦で健全なところの人に1人でも預かってもらえる仕組みをどんどん増やしていかれる方がいいと考える。

【担当課】 次の分野の項目でファミリーサポート事業というのがあるが、その事業ではシニアの方が援助会員としてボランティアで活動いただいている。また、シニアの方々のボランティアグループがあり、その方々も託児ボランティアという形でどんどん参加いただいているし、みっきランドという子育て支援施設では、かるがもの会というボランティア団体の方々に手伝っていただいている。イクメン、育じい、育ばあというような形では、サポートセンターゆうという子育て支援の施設で事業を何度かやらせていただいた。

【竹内委員】 子育て支援の問題については、世代を超えた仕組みづくりが大事だと思

う。また保育園だけでなく、幼稚園を含めたこども園化にもリンクしてくる。

【担当課】 生駒市は28年度にみなみ保育園と幼稚園を一緒にしたこども園の開設を予定している。

【竹内委員】 保育園、こども園だけでなく、子供の教育を統一して所管すれば、子育てを支援するじいちゃん、ばあちゃんも育ってくるんじゃないかなと思う。

【梶井委員】 こども園のメリットと、その所管課について教えていただきたい。

【担当課】 メリットは、長時間保育と短時間保育のお子さんが一緒に過ごすということで、同じカリキュラムを受けられるということ。また今後、小学校に上がるときに、大きな輪の中で一緒に過ごしたメンバーが上の小学校に行けるというところもメリットだと思う。それから、短時間保育のお子さん、つまり幼稚園で今入っておられる御家庭が、お母さんが働きたいなと思ったときには長時間利用児にシフトできるというところもメリットであり、給食サービスを受けられるということもメリットである。ちなみに、みなみこども園はまだ認定は取らない。財政的な支援のメリットもまだ見えないので、今のところは取らない形で幼稚園と保育園を一緒にしようと考えている。両園とも、今、耐震化の問題があり、すぐ工事をしなければならないということではないが、心配なところもあるし老朽化もしていることもあって、たまたま隣接で至近距離に2つの園があるので1つにさせていただいて運営させていただきたいなと思っている。担当課は今、教育委員会とこども課で2つにまたがっているが、どこかの段階でこども課が中心にやらなければならないと思っている。

【梶井委員】 教職員は、保育士さんと幼稚園の教員と、両方の方が先生としてやっていただくということになるのか。

【担当課】 そうなると思う。免許は教員、保育士の両方を持っている職員が多い。また、昨年度から幼稚園と保育園の人事交流もやっており、お互いの仕事の違いというのを学んでいただいて、理解し合ってもらって、28年度の南こども園が運営するときには、その体験した職員を配置していきたいなと考えている。

【梶井委員】 あすか野小学校の学童保育について。分割するというのは、それは建物を部屋で区切って分割するという、内容的には、どのような分割なのか。

【担当課】 今、あすか野の実態は、1つはプレハブで校舎の横に建っており、2つめは空き教室を利用している。3番目は、今ある学童保育所の東隣に新たなプレハブを建てる。

【加藤部会長】 これ、Cと自己評価ですけど、書いているので、Bに近いCという。

【梶井委員】 3-1 市民の役割分担の回答について。「取り組んでいる」「取り組んでいない」というのは分かりづらいと思う。

【竹内委員】 市民調査では当事者でないと答えられない問題が結構あるので、それは全部クロス集計で、当事者の人たちが回答をしているような形で、その数字を使った方がいいと思う。それと、事業者についての問題は、事業者も今回は商工会議所の御紹介でやっておられると思うので、該当者が入っているか入っていないかという問題がある。

【事務局】 3-1の市民の役割分担状況については、「十分取り組んでいる」「取り組んでいない」の最後に「該当しない」とあり、当事者以外は省いて集計はしている。事業所に関しては、おっしゃっている御指摘の課題として、また事業者アンケート自体のやり方についても、来年度実施する予定ですので、また調査の方法については審議会の方で御意見をいただきたい。

【加藤部会長】 アンケートの回答の文言を考えていただきたい。評価はC。

⑥No. 213 子育て支援

【担当課】 (検証シートについて説明)

【加藤部会長】 今の説明では、指標のファミリーサポート事業は会員制なので、ちょっとボランティア的な要素もあるということで、その人たちの需要と供給の問題があるということ。それと、みっきランドについての利用数ということで、このみっきランドというのは、子育てひろば事業のことか。

【担当課】 はい。月から金曜日に行っている。

【加藤部会長】 土日になると増えると思う。

【担当課】 そういった事業は、ほかにもあり、例えばサンデーひろばという形で中保育園の園庭開放をしていたりする。月1回第1日曜日に行い、50組程度来られる。

【加藤部会長】 開く時間帯を少し延長すると増えるだろう。ただ、職員をどう確保するかという問題も多分あるが。

【担当課】 今年度は6月からできなくて、7月から始めたが、9月で終わってしまうかなと思う。生駒市内で新園等もできているので、保育士がなかなか見つからない。

【加藤部会長】 委員から御質問について回答をお願いします。

【担当課】 トリプルPについて。これは、子育て支援の講座のプログラムで、オース

トラリアのクイーンズランド大学で、子育て支援センターにおいて25年以上かけて臨床実験をされたプログラムであり、前向きな子育てプログラムと評価されている。このトリプルPという名前は、Positive Parenting Program、その頭文字3つをとったプログラムになっている。これを生駒市も、23年度、奈良県がこのファシリテーターの養成講座というのを開催し、それに家庭児童相談員が入ってこのプログラムを学習してきてもらって、24年度から2期開催をさせていただいて、12名ずつの参加者で、1クール7回開催した。今年度も2期程度の開催を予定している。

【加藤部会長】 養成にはお金がかかるが、人気がありイギリスでは、マンチェスターで取り入れている。また、カナダやオーストラリア、香港、アメリカ、などでも行っている。

【生川委員】 ひとり親家庭への支援状況について伺いたい。

【担当課】 自立支援という形の事業としては、高等機能訓練で看護師の資格を取るか保育士の資格を取ることにに対する支援がある。また奨学金の貸付や児童扶養手当、医療の援助とか保育料の減免というのは、ひとり親家庭も全て対応している。

【生川委員】 外国人の方への子育て支援は。

【担当課】 そういうケースも実際あり、家庭自体は収入もあって大丈夫だが、母親の育児能力に問題があって、児童相談所も入って最終的には子供を一時保護したりという形で対応したこともあった。

【梶井委員】 みっきランドの利用について。夏場1時間延長したら利用者数が増えたというのは、すごくいい方法だなと思う。駐車場については考えていただきたい。

【担当課】 市役所でしたら2時間の駐車は可能であるし、エンジェルパスを利用すれば3時間駐車できる。また、こういったひろば事業は民間保育園でも始まっているので、そういうPRもパンフレットを作って載せている。

【加藤部会長】 ひろば事業が幾つかあるのであれば、その利用状況をトータルしてカウントしていただいたら良いと思う。今は、行き場所がないお母さんたちが多いので。

【担当課】 ほかにもびよびよサロンやもこもこサロンというのを23年度から始めている。ゼロ歳児のお母さんたちが交流できる場をつくっただけだが、40組、50組も来ていただいた。

【生川委員】 家庭訪問みたいな事業はされているのか。

【担当課】 家庭児童相談室があり、臨床心理士、児童福祉司、保健師さんとの連携を

取っている。孤立しているとか育児がしんどい家庭には、養育支援員が派遣という形で、それを家庭児童相談員と保健師で、この家庭にはどんな支援が必要なのかというのをともに考えながら協力しあって対応している。また虐待児童に対応する機関で要保護と要支援というような形でケースを分け、保健師が行ったり、養育支援員が行ったり、家庭児童相談員が訪問したりとか、皆でどういう支援をしていくかというのを検討しながら取り組んでいる。

【生川委員】 24時間のホットラインみたいなものはあるのか。

【担当課】 市に直接つながるのはなく、県や全国のホットラインを紹介している。なかなか24時間対応というのは難しい。

【竹内委員】 指標について、もう少し中身を分析してもらいたい。かなりやっぴらっしやることもあるんだけど、それが表面的に出てこない。

【加藤部会長】 相談件数などを入れても良いと思う。送り迎えとかボランティアとか、そういうときのお手伝いで登録していただくとかで支援をお願いしても良いだろう。

【担当課】 援助会員になっていただけませんかとか広報にも何度か載せるが、なかなか増えていない。

【加藤部会長】 評価はCにしたい。これで本日の会議の案件は終了する。